

RSウイルス感染症の報告数が増えています

2024年5月2日

茨城県衛生研究所（感染症情報センター）

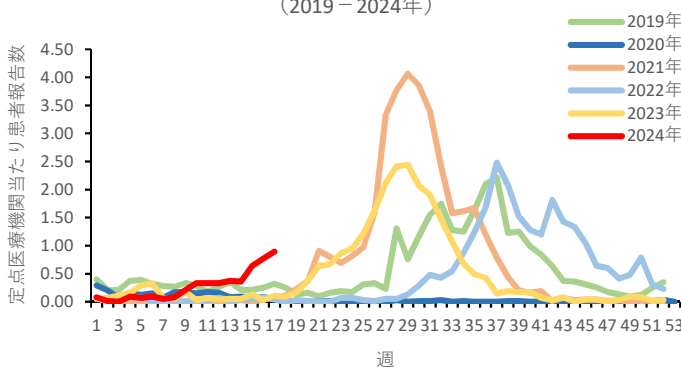
県内の報告数

定点当たり報告数は、2024年第15週以降、3週連続して増加しており、過去5年間の同時期において最も高い値で推移しています。近年、RSウイルス感染症は、夏から増加傾向となり秋にピークがみられていましたが、2021年と2023年は夏にピークがみられました。全国では、茨城県に先駆けて定点当たり報告数が増加していることから*、今後県内で感染が拡大する可能性があり、注意が必要です。

* 国立感染症研究所 感染症発生動向調査週報（IDWR）

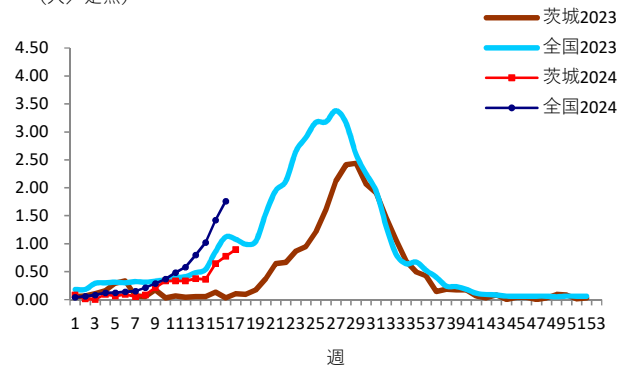
RSウイルス感染症の定点医療機関当たり報告数・茨城県

(2019-2024年)



RSウイルス感染症

(人/定点)



RSウイルス感染症とは

RSウイルス感染症は、乳幼児に多くみられる呼吸器感染症です。潜伏期は2～8日であり、生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%のひとがRSウイルスの初感染を受けます。

主な症状は、発熱、鼻汁などの上気道症状ですが、初感染のうち約20～30%で気管支炎や肺炎などを起こすとされており、また乳幼児においては、肺炎の約50%、細気管支炎の約50～90%がRSウイルス感染症によるとされています。

また、慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者も重症化するリスクが高いため、注意が必要です。

感染予防について

主な感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、手指や物を介した接触感染です。マスク着用や咳エチケット、手洗いやよく触れる物・場所の消毒といった基本的な感染対策をすることが有効です。